

## 笑顔の国・エルサルバドルのエコ活動 ～おいしいコーヒーも楽しめます～

東大和市内にお住まいの方が、青年海外協力隊、シニア海外ボランティアとして活動されています。  
平成21年7月4日（土）中央公民館にて、青年海外協力隊の活動を終え帰国された立野在住の熊谷とも絵さんに、その貴重な体験をお話していただきました。



### <講師について>

青年海外協力隊として、2005年11月～2007年11月の2年間、2008年3月～2008年9月の半年間、エルサルバドル国のサンタ・ロサ・デ・リマ市の環境課で環境教育職として従事した。現在は、大学院の国際地域学研究科で途上国の環境衛生について学んでいる。

### <エルサルバドルの基本情報>

首都：サンサルバドル

※講師の勤務先は、ホンジュラスの国境に近いサンタ・ロサ・デ・リマ市。首都からバスで3時間、167キロ離れている。

人口：685万人

言語：スペイン語

経済：主要産業は綿花（繊維製品）、コーヒー、砂糖



### <エルサルバドルの略歴>

1525年 スペイン人が上陸

1821年 独立宣言

1980年～1992年 内戦 7万5千人の死者が出た。

### <エルサルバドルの雑学>

- ・南北アメリカ大陸の中でカリブ海の島嶼国を除いて一番小さい国だが、人口密度は高い（世界中から見ても10位以内に入るほど）。人口のうち約200万人がアメリカに出稼ぎに行っていると言われている。出稼ぎによって得られたお金で生計を支えている家庭も多いが、密入国しているケースも多い。
- ・戦後最初に日本企業が進出した国がエルサルバドル。ユサ社（呉羽紡績と東洋紡績によって設立された繊維企業）。
- ・星の王子様の作者、フランス人のアントワーヌ・ド・サンテグジュペリの妻がエルサルバドル人であったため、星の王子様に出てくる景色は、エルサルバドルがモデルでは無いかと言われている。

## <食生活について>

主食はトウモロコシ。日本のものと種類が違って白くてモチモチしている甘みは無い。それを粉にしてトルティーヤにする、お米もおかずとして食べる。

果物は豊富で、特にマンゴーは安いのでよく食べられる。旬の時期は、道端がマンゴーの種だらけになる。野菜はあまり食べない。

フライドチキン、ハンバーガーのメニューが大好きで、料理には、油や砂糖を沢山使う。また、暑い国なので飲み物の消費が激しい。炭酸飲料が好きで、哺乳瓶で子どもにコーラを飲ませていたりというショッキングな場面を目にした（エルサルバドルでは、食あたりの予防として炭酸を飲む習慣がある）。

傷みが早いので、海鮮はご馳走であるが、肉（特に鶏肉）を好む。豚は衛生的では無いという理由であまり食べない人が多い（野ブタが多くアレルギーもおこりやすいことから）。

肉は、しっかり加熱調理するため硬く石鹸のような匂いがして、パンや買った水も匂いが強い。食にあたると、とても辛いことになる。

## <エルサルバドルでの環境の取組み>

青年海外協力隊の活動には120職種ほどある。講師は、以前に産業廃棄物処分会社に勤めていたという経験もあり、ごみ問題解決の要請を受け環境教育職としてプラスチックのリサイクル事業に従事した。

首都の周辺では、金属などのリサイクルはある程度進んでいるが、その他のものは放置されている。プラスチックを買い取る事業を開始して最初の3ヶ月はほとんど反応がなかった。そういう習慣がなかった地域にとって、プラスチックがリサイクルできると理解してもらうには時間がかかった。

プラスチックを買い取るための資金を、市役所に説明し当初500ドル（現地の労働者の平均月給は約200ドル）を工面してもらった。収集したプラスチックは、ホウキや長靴、サンダルのリサイクル工場に買い取ってもらうよう交渉した。

ちょっとでもお金になるかも知れないという気持ちをきっかけに、少しずつ分別の習慣が広まっていった。プラスチック類は場所を取るため、収集後はトラックで潰してスリム化させた。潰れやすいようにペットボトルのキャップははずして出してもらいたいのだが、以前に保健所がペットボトルのキャップをしっかりと締めて捨てるよう指導していたため、徹底するのに苦労した。分別が進んだことで、買い取りの単価を上げてもらうことに成功した。

講師が帰国する頃には、市役所が工面した資金は計2,100ドルだったのに対し、収益は2,400ドルと黒字に転じた。

これに刺激を受けて、他の国や地域からも協力依頼が来るようになった。

また、事業が成功したことで、「紙もリサイクルできるのか」など、周囲の人が様々な提案をしてきてくれるようになった。

## <食育の取組み>

環境教育の傍ら、エルサルバドル人の食生活を心配して、市役所で着色料や添加物についての講座を開いた。食料品に着色料がどれほど使われているかを実験で見せたところ反響が大きかった。他からもリクエストがあり、出張講座を行ったりもした。